

経済レポート

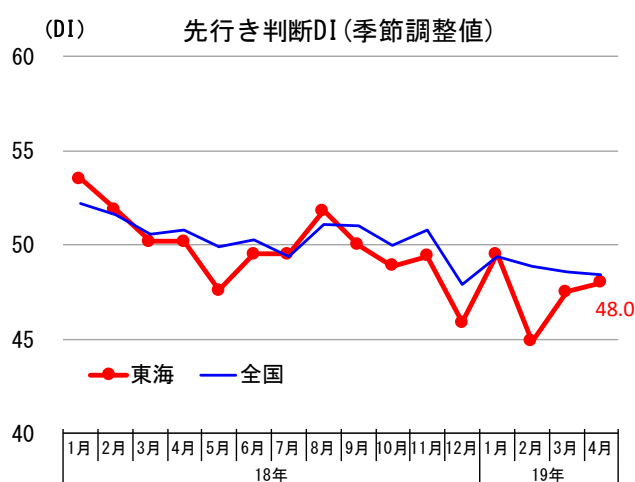
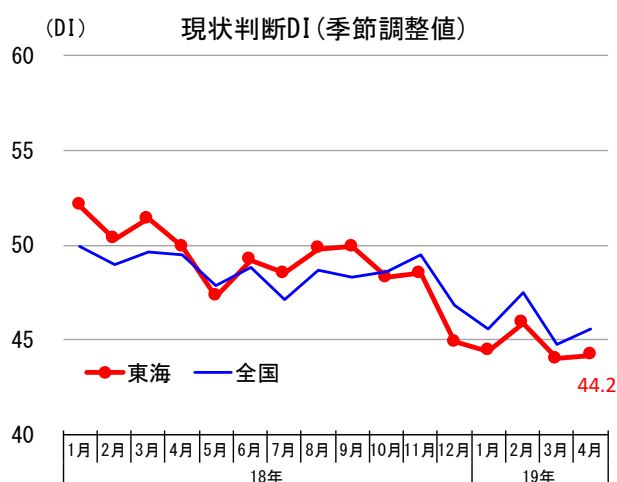
景気ウォッチャー調査(東海地区:2019年4月)

～現状判断DIは2ヶ月ぶりに上昇～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 5月14日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の4月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+0.2ポイントの44.2と2ヶ月ぶりに上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+0.5ポイントの48.0と2ヶ月連続で上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

弱い動きが見られる。先行きについては、改元や消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、大型連休による消費増の反動や外需の不透明性などが懸念されている。

とまとめ、基調判断を据え置いた。

(前月のまとめ)

「弱い動きが見られる。先行きについては、改元や消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、一部商品の値上げによる消費抑制や海外情勢などが懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

このところ回復に弱さがみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念がみられる。

とまとめている。

(前月のまとめ)

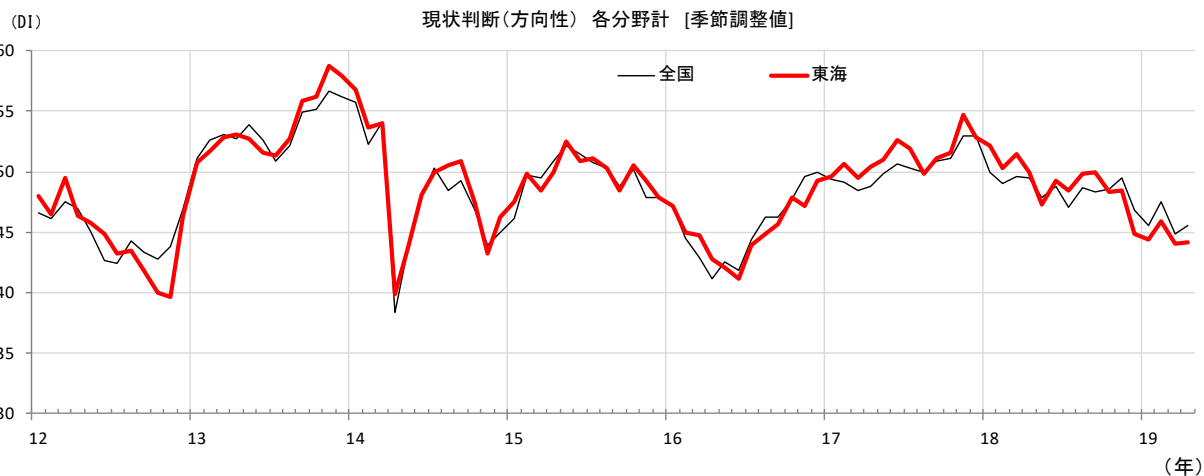
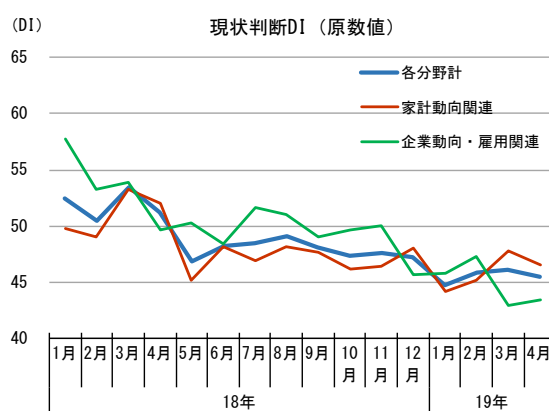
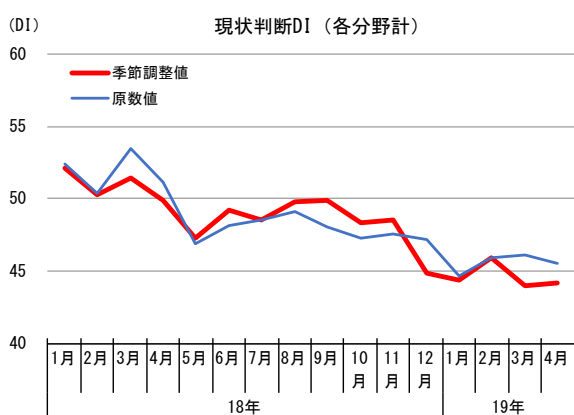
「このところ回復に弱さがみられる。先行きについては、海外情勢等に対する懸念もある一方、改元や大型連休等への期待がみられる。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断（3ヶ月前との比較、方向性）

（1）DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²（季節調整値）は、前月差+0.2ポイントの44.2と2ヶ月前に上昇したが、小幅な上昇であり概ね横ばいとなった。
- 原数値では、前月差-0.6ポイントの45.5と3ヶ月前に低下し、横ばいを示す50を12ヶ月連続で下回った。部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同-1.3ポイントの46.5と3ヶ月前に低下し、横ばいを示す50を12ヶ月連続で下回った。一方、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は悪化方向の回答の減少により、同+0.5ポイントの43.4と上昇したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は226、うち家計関連150、企業・雇用関連76。以下、先行き判断、水準についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI（原数値）は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- 改元による新時代への期待や消費税率引き上げ前の駆け込みによる景況感の改善を指摘する声がある。

○	百貨店(総務担当)	4月前半は天候に大きく左右され、売上も一時期は落ち込みをみせたものの、下旬は10連休と皇太子殿下の御即位のお祝いムードが醸し出され、消費も好調に推移し売上も前年並みを確保できる見込みである。
○	旅行代理店(経営者)	消費税の引上げの関係で消費が上向いてきている。
○	旅行代理店(経営者)	新しい時代に向かって来店する客の表情が明るいように感じる。

- 一方、客単価の低下を憂う声や、連休で旅行関連以外の消費がさえないとの指摘もある。

□	商店街(代表者)	依然として単価の動きが良くない。売れ筋商品を値上げすれば、それに伴って販売量が減っている。したがって、客単価そのものが低いままである。
□	百貨店(経理担当)	大型連休を前に旅行関連消費は盛り上がっているが、旅行以外の消費については消費を抑えようとする姿勢が感じられる。

【企業動向関連】

- 受注、販売が横ばいとなる中、収益性が悪化している模様だ。

□	電気機械器具製造業(経営者)	12月以降、受注量、販売量共に横ばいが続いている。客先で聞いても、こしばらくは横ばい状態が続くのではないかという話を聞く。
□	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	完成車の輸出が最近振るわない。
▲	食料品製造業(経営企画担当)	受注量が上がらない。原材料価格も高止まりの状況で収益性が悪化している。

【雇用関連】

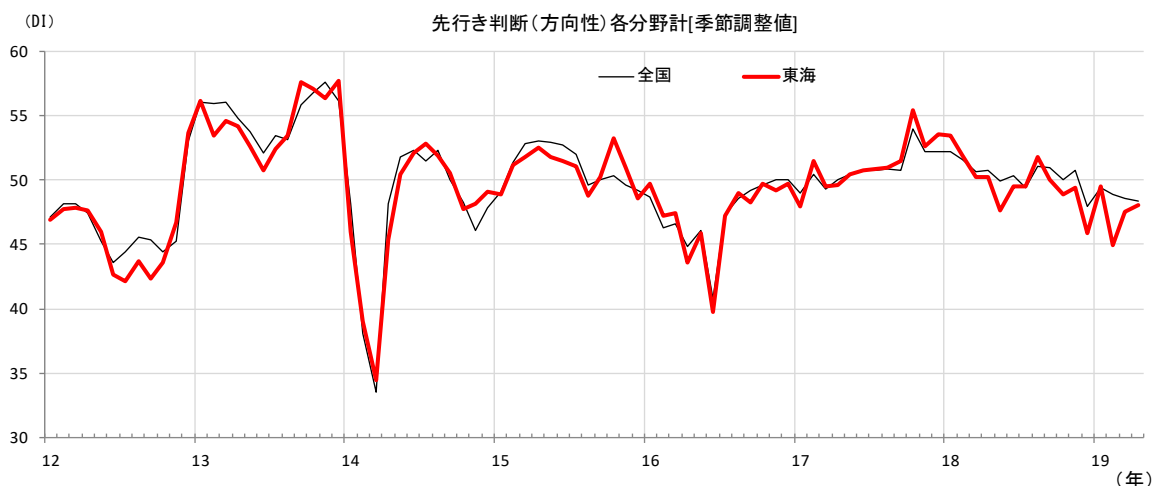
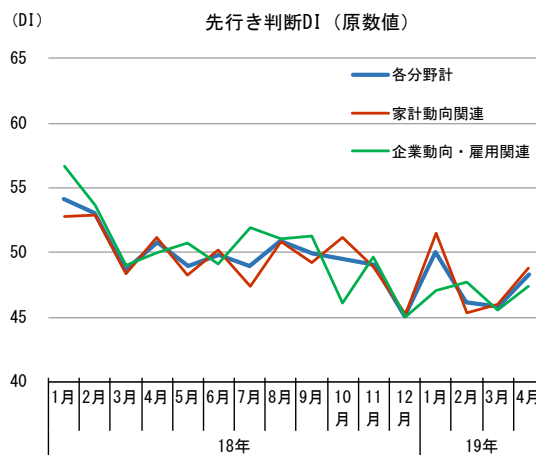
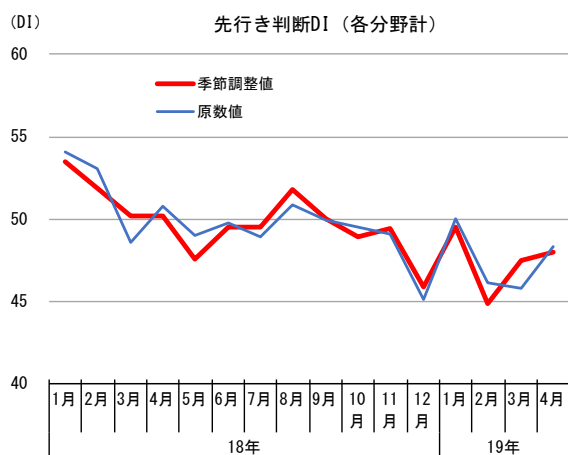
- 人手不足の状況が続いているようだが、求人が減ってきているとの声もある。

□	人材派遣会社(企画統括)	求人数は引き続き高い水準が続いているが、求職者数は年度初めで落ち着きを見せ、減少している。
□	アウトソーシング企業(エリア担当)	県内において、大手自動車系の2次下請企業での募集ストップが見受けられる。
▲	職業安定所(職員)	管内の主要産業である自動車産業の新規求人が減少傾向にある。

2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

（1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+0.5ポイントの48.0と2ヶ月連続で上昇した。
- 原数値では、前月差+2.5ポイントの48.3と3ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。改元や消費税率引き上げ前の駆け込み需要への期待が見られる一方、大型連休による消費増の反動や外需の不透明性などが懸念されている。部門別に見ると、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+2.8ポイントの48.8と2ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+1.9ポイントの47.4と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を7ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎: 良くなる、○: やや良くなる、□: 変わらない、▲: やや悪くなる、×: 悪くなる

【家計動向関連】

- 前月に続き、改元、消費税率引き上げ前の駆け込みに期待する声が多くみられる。

○	百貨店(計画担当)	今後、改元の祝賀ムードや消費税引上げ前の駆け込み需要が増えることが予想される。
○	乗用車販売店(従業員)	消費税引上げ前の駆け込み需要が本格化してくると思われ、車検証が令和元年となる記念の年に自動車登録したいという客が増えてきているので、意外ではあるが、改元効果が出てきていることを実感できる雰囲気である。ガソリンの価格が若干上がってきているのは不安材料であるが、工場への入庫数も前年並みであることを考えると、この先が楽しみに感じられる。
○	通信会社(企画担当)	改元をきっかけとする新商品や新サービスの展開によるお祭りムードが、数か月は続くと思われる。

- 一方、連休後の節約志向の高まりを懸念する声もある。

▲	乗用車販売店(営業担当)	過去にない10連休で、終わった後の状況は読みにくいが、連休後はしばらく金を使わない風潮になるのではないと思われる。ただ、徐々に消費税アップの話が客から出始めているので、その前に買換えを検討する客は、少しずつ出てくるのではと思う。
▲	その他専門店[書籍](店員)	今年はゴールデンウィークが10連休の企業も多かったので、レジャー代などに流れたこともあり、2~3か月先は反動がありそうで、財布のひもも固くなりそうなので、売上は少し落ち込むのではないかと懸念している。

【企業動向関連】

- 需要の伸びが見込みにくく、せいぜい現状維持とのコメントが多い。

□	一般機械器具製造業(営業担当)	北米市場では設備投資が上向きになる要因はなく、欧州やアジア市場でも投資に消極的な話が多く、北米市場の落ち込みを補うことができない。
□	一般機械器具製造業(経営管理担当)	受注量、販売量が安定推移している。
□	電気機械器具製造業(経営者)	半導体関係、工作機器関係共に、先がみえないという客が多い。今後の円相場等の動向によっても変動があると思うが、受注等に鑑みても、ここしばらく2~3か月は景気が上向くような状況がみえない。

【雇用関連】

- 人手不足の状況が続くとの見方がある一方で、求人鈍化を懸念する声もある。

□	人材派遣会社(企画統括)	求人企業の人手不足の状況は、当面続くものと考えられる。
□	人材派遣会社(営業担当)	4月の求人数は増加したが、それ以上に3月の契約終了が多かったため、契約数は減少傾向である。大型連休以降の求人を注視していかないと2~3か月先は不透明な状況である。
□	求人情報製作会社(営業)	国内の景気は停滞感がある。自動車等の輸出関連企業の国内生産が、中国の消費低迷などの影響で低調である。それに伴い、人員の余剰感が出ており、求人ニーズも停滞している。国内の景気や市場は海外情勢に影響されるので、上昇する材料が現在は乏しい。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。